誰一人取り残さない情報発信のサイクルを目指して

第4回　ホームページのフォント

世帯数 12,885 世帯
Before

世帯数 12,885 世帯
After

UD 新ゴ
線と線の間の空きがしっかり確保されて、視認性が高くなりました

市長の部屋
Before

市長の部屋
After

UD デジタル教科書体
ロービジョン、ディスレクシアのエビデンスのあるフォント
長文でも読みやすいサイトを目指しました

ホームページでも「UDフォント」始めました

行方市ホームページ

12月から、行方市のホームページは、UDフォントにリニューアルします。こちらのコラムでは、UD（ユニバーサルデザイン）フォントについて、どのような背景で生まれたのか、どのような場面で活躍するのかなどお伝えしてきました。すでに、広報誌、一部の申請書、通知書でもUDフォントの活用が始まっていますが、行政情報の発信にとても重要なホームページの文字も、いよいよUDフォントになりました。

今回は、導入前と導入後の変化をお届けしたいと思います。

いかがでしょうか？

市の顔として、ホームページは重要です。Webフォントが適用されていなかった導入前は、閲覧する端末（パソコン、タブレット、スマートフォン）によって、見えるフォントが異なりました。（導入前後のスクリーンショットは、Windows端末で閲覧した時のフォント）Webフォントが適用された現在は、どの端末から閲覧しても、同じUDフォントで皆さまに情報をお届けできるようになりました。

今回の改訂では、メニューや見出しには「UD新ゴ」、本文には「UDデジタル教科書体」を採用しました。全体的にUDデジタル教科書体の文字が多いので、優しい雰囲気になったと感じる方も多いかと思います。

10月と11月のコラムでは、両方のフォントについて解説していますので、ぜひバックナンバーも見返していただければと思います。

急性の高い情報こそ

近年の行政情報は、コロナウイルスにまつわる、とても緊急性の高い重要な情報が多く存在します。その情報の文字を、年齢・性別・ハンディキャップにより取得できない状況をできる限り回避し、多くの方に〝しっかり〟届けることは大切な責務です。今回のWebフォント導入は「情報発信日本一」という目標にさらに一歩近づけたのではないかと思います。

バックナンバーはこちら▼

編集協力・株式会社モリサワ